資料１

令和６年７月24日
港　区

港区
「地域包括ケア推進事業」
令和5年度報告

【掲載内容】

1　港区の地域包括ケアの推進について
2　地域包括ケアを推進する会議報告
3　地域包括ケア推進を推進する連絡会の報告
4　港区在宅療養相談センターの運用
5　在宅療養後方支援病床の運用実績
6　地域包括ケア研修会の実施報告
7　福祉総合窓口について
8　支援者のための関係機関連携ガイドブックについて
9　普及啓発

港区保健福祉支援部保健福祉課

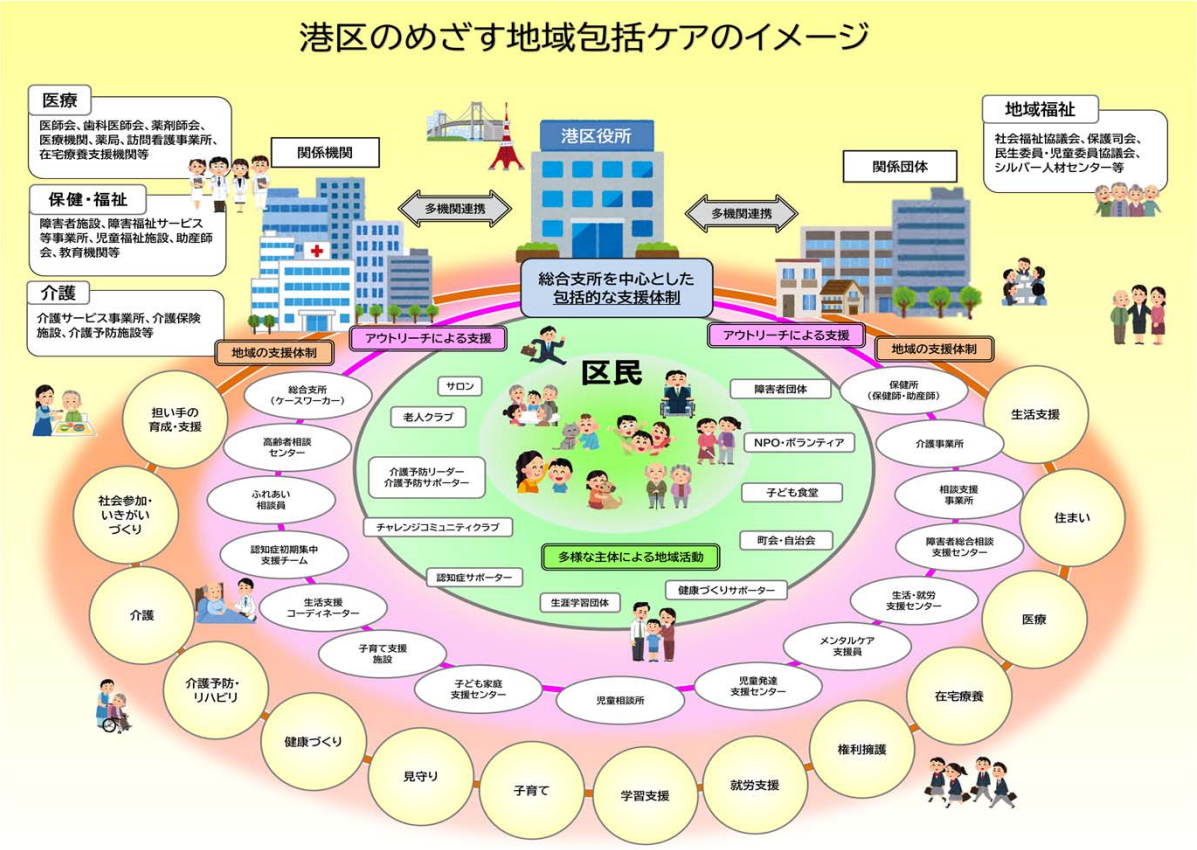
1 港区の地域包括ケアの推進について

（1）区のめざす地域包括ケアのネットワーク

区は、全ての区民が地域社会を構成する一員として、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、多様な社会参加ができるよう地域全体が相互に協力し、支え合う地域包括ケアを推進しています。

区がめざす地域包括ケアの将来像

港区全体が相互に協力し支え合い、全ての区民が地域社会を構成する一員として、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、多様な社会参加ができるまちの実現をめざします。



多様な主体による地域活動

区民を取り巻く多様な地域で活動する団体等との連携

アウトリーチによる支援

介護保険や医療保険、福祉サービス、専門機関の相談員等のアウトリーチ等の活動の連携

地域の支援体制

総合支所を中心とした多機関・多職種連携を推進

（２）地域保健福祉計画における項目と事業について

地域福祉分野

中項目	小項目	事業	主な内容
港区ならではの地域包括ケアの推進	（１）地域包括ケアの推進体制の充実	①多職種による推進体制の強化	・港区地域包括ケア推進会議 ・在宅医療・介護連携推進部 ・地域リハビリテーション・介護予防推進部会
		②地域課題等への対応力の強化	
		③自立した生活を送るための仕組みづくり	
	（２）包括的な相談体制の整備	①福祉総合窓口の設置	・福祉総合窓口 ・福祉関係機関等連絡会
		②関係機関等との連携の強化	
		③複合的な課題に対応できる体制づくり	
	（３）在宅療養等に関する連携の推進	①病院等医療機関との連携の推進	・港区医療機関等連絡会 ・在宅療養後方支援病床 ・地域包括ケア研修会 ・港区地域連携連絡会
		②医療・介護従事者に向けた連携の推進	
		③在宅療養等に関する連携	
	（４）地域を支える仕組みづくり	①相談機能の強化と連携	・港区在宅療養相談センター ・支援者のための関係機関連携ガイドブック
		②地域で活動する団体との連携	
		③在宅生活を支援する仕組みづくり	
	（５）効果的な情報発信	①区民等に向けた啓発	・区民公開講座 ・医療機関・介護事業者検索システム ・みなと医療BOOK2024年版 ・ホームページ、デジタルサイネージ等の活用 ・各種イベント等への参加
		②医療機関等に関する情報の発信	
		③関係団体との連携強化	

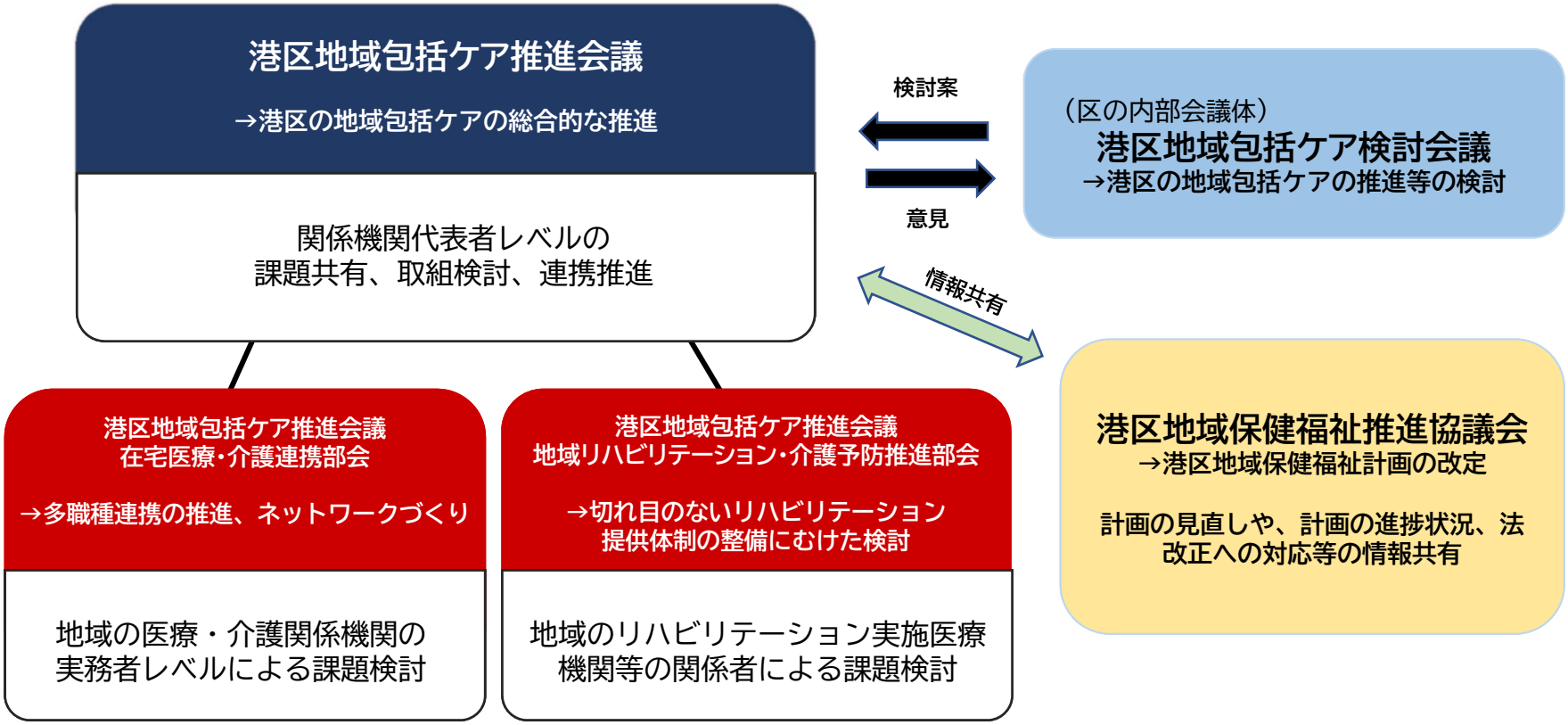
健康づくり・保健分野

中項目	小項目	事業	主な内容
安心できる地域保健・地域医療体制の推進	（３）支え合いによる地域保健活動の強化	①地域リハビリテーション体制の充実	地域リハビリテーション・介護予防推進部会

（３）港区の地域包括ケアの推進体制

港区ならではの地域包括ケアの推進に関する事項や更なる多機関･多職種の連携を推進する協議のため、区では港区地域包括ケア推進会議設置要綱に基づき、各種会議を開催しました。

令和５年度の港区の地域包括ケアを推進する体制



2 地域包括ケアを推進する会議報告

地域包括ケアの推進体制の充実

（1）港区地域包括ケア推進会議

港区の地域包括ケアの推進に向けた取組及び調整のほか、各分野相互の情報共有等を協議しました。

回数	開催日	議　題　等
第１回	令和５年７月24日 （リモート・参集併用）	1　令和４年度　港区の地域包括ケアの推進に関する事業報告について 2　令和５年度　港区の地域包括ケアの推進について 3　多職種連携の推進等について 4　重層的支援体制整備事業について
第２回	令和６年１月25日 （リモート・参集併用）	1　福祉総合窓口の現状について 2　令和５年度　港区地域包括ケアの推進に関する事業報告について 3　高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の取組状況について 4　重層的支援体制整備事業の実施について

港区地域包括ケア推進会議 委員名簿　令和５年度第２回開催時点（敬称略）

氏　名	職　名　等
河合　克義　◎	明治学院大学　名誉教授
坪田　淳　〇	東京都港区医師会　会長
岡崎　正史	東京都港区芝歯科医師会　会長
綱島　俊幸	東京都港区麻布赤坂歯科医師会　会長
北村　兼一	東京都港区薬剤師会　会長
竜崎　崇和	東京都済生会中央病院
嶋津　多恵子	国際医療福祉大学大学院　教授
髙木　信之	港区介護事業者連絡協議会　会長
奥野　佳宏	港区社会福祉協議会　事務局長
田中　泉	港区民生委員・児童委員協議会　会長
竹中　豊治	赤坂青山町会連合会　会長
山本　睦美	保健福祉支援部長
笠松　恒司	みなと保健所長

◎会長　〇副会長

（２）在宅医療・介護連携推進部会　※港区地域包括ケア推進会議の下部組織

港区の在宅医療及び介護に関する連携の推進のため、各団体等の情報共有やガイドブックの作成等を検討しました。

回数	開催日	議　題
第１回	令和５年８月29日 （リモート・参集併用）	1　港区在宅療養相談センターの運営状況等について 2　多職種連携の推進等について 3　各種連絡会等の報告について 4　意見交換（在宅療養者の生活の場における医療と介護の連携の課題）
第２回	令和６年１月18日 （リモート・参集併用）	1　各種事業報告等について 2　第１回在宅医療・介護連携推進部会で挙がった地域課題について 3　今後の取組について

港区地域包括ケア推進会議　在宅医療・介護連携推進部会員名簿　令和５年度第２回開催時点（敬称略）

氏名	職　名　等
安田　淳　　◎	東京都港区医師会　常務理事
菰池　信彦	東京都港区医師会　担当理事
華岡　眞幸	東京都港区芝歯科医師会　副会長
兼松　由美子	東京都港区麻布赤坂歯科医師会　副会長
青木　美子	東京都港区薬剤師会　副会長
福田　恵子	地域医療機能推進機構　東京高輪病院　医療連携・患者支援センター　社会福祉士
岩渕　美和子	医療法人財団厚生会　古川橋病院　看護部長
享保　奈々	港区介護事業者連絡協議会　居宅介護支援部会長
南塚　恵	港区立がん在宅緩和ケア支援センター　副施設長
内藤　麻里	高輪地区高齢者相談センター（地域包括支援センター白金の森）　管理者
高嶋　慶一	港区社会福祉協議会　事務局次長

◎部会長

※要綱第７条第５項に基づき港区介護事業者連絡協議会　訪問看護部会長もご出席いただきました。

（３）地域リハビリテーション・介護予防推進部会

※港区地域包括ケア推進会議の下部組織
※事務局：港区みなと保健所　地域医療連携担当

地域リハビリテーション及び介護予防に関する取組の情報共有や関係団体等との連携の推進について検討しました。また、約３年ぶりに区中央部リハビリテーション支援センター（東京慈恵会医科大学附属病院）と連携し、区民講座を実施しました。

	開催日	内容・議題
区民講座	令和５年９月20日	１　介護予防総合センター・ラクっちゃの施設・事業紹介 ２　健康増進センター・ヘルシーナの施設・事業紹介 ３　講演「アフターコロナ！いつまでも動けるからだづくりをしませんか？」 ～コロナの制限明けの今に必要な運動のきっかけづくり～ （講師　安保先生（東京慈恵会医科大学　リハビリテーション医学講座　教授）
部会	令和６年２月29日 （オンライン会議）	１　「回復期リハビリテーション病院連携調整アンケート」の調査報告 ２　区民講座「アフターコロナ！いつまでも動けるからだづくりをしませんか？ ～コロナの制限明けの今に必要な運動のきっかけづくり～」の報告について ３　区からの情報提供

港区地域包括ケア推進会議 地域リハビリテーション・介護予防推進部会員名簿　令和５年度開催時点（敬称略）

氏名	職　名　等
安保　雅博　◎	東京慈恵会医科大学附属病院　副院長、診療部長
腰塚　裕　○	アットホーム表参道クリニック　整形外科・リハビリテーション科院長
中林　秀夫	みなと整形外科内科クリニック　整形外科・内科院長
白土　貴史	地域医療機能推進機構　東京高輪病院　整形外科部長
佐藤　志穂子　○	麻布地区高齢者相談センター(南麻布地域包括支援センター)　社会福祉士
小宮山　由香	８８訪問看護ステーション　管理者（訪問看護）
尾芝　徳一	介護予防総合センター　センター長
大石　真由美	居宅介護支援事業所アステイジ　代表取締役（居宅介護支援）

◎会長　　○副会長

3 地域包括ケアを推進する連絡会の報告

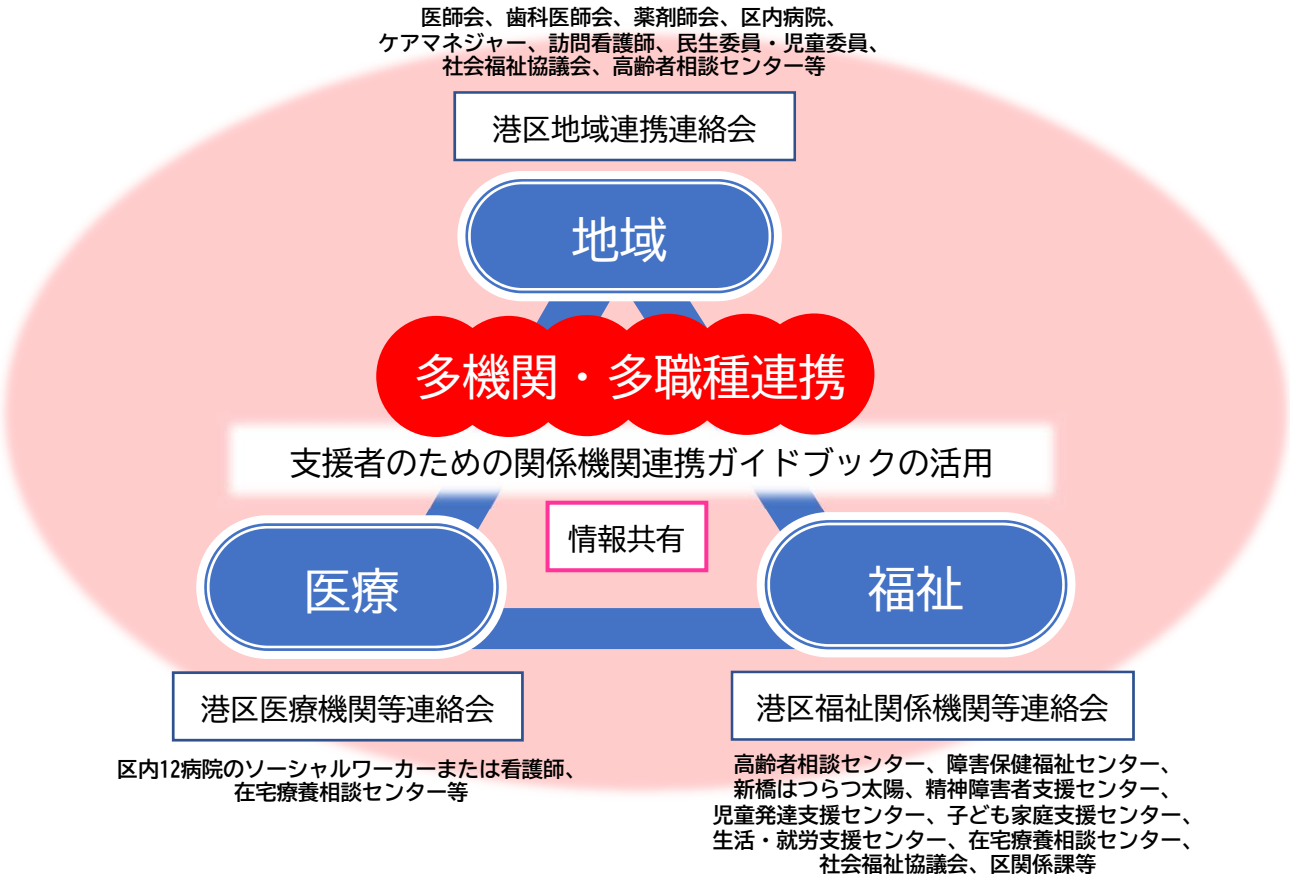
包括的な相談体制の整備

在宅療養等に関する連携の推進

（1）連絡会の体制

地域包括ケアの推進のため、これまでの取組を踏まえ、多機関・多職種連携の一層の推進を図るため、地域・福祉・医療の分野を中心とした地域で活動する機関や団体等による連絡会を開催し、情報や課題の共有を図るとともに、グループ討議等を行いました。

（2）相関図



（３）港区地域連携連絡会

在宅療養等に関する連携の推進

港区在宅療養相談センターにおける相談対応の検証や医療資源の情報共有及び地域課題に関する検討等を中心に、各関係団体等との関係性の構築を目指す目的として、港区地域連携連絡会を開催しました。

第１回	日時	令和５年７月20日（木）19時30分～20時30分
	会場	港区立介護予防総合センター　研修室
	参加者	13人(医師会、薬剤師会、区内病院、ケアマネジャー、訪問看護師、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、高齢者相談センター等)
	議題等	１　開会のあいさつ ２　自己紹介 ３　在宅療養相談センターの運営状況等について ４　情報提供・意見交換 ５　区からの情報提供
	内容	港区在宅療養相談センターの運営状況や相談事例を共有したほか、港区医師会から訪問診療・往診における課題について、港区薬剤師会から訪問薬剤管理指導の現状と課題について説明いただいたうえで、在宅療養に関することを中心に地域での課題について意見交換を行いました。
	主な意見	・高層マンション等においてセキュリティの高さが訪問を困難にしている。 ・訪問時に自転車置き場のないマンションが多い。 ・課題について、区からの何らかの働きかけをしてほしい。

第１回　港区地域連携連絡会の様子

第２回	日時	令和５年12月８日（金）19時30分～20時30分
	会場	港区立介護予防総合センター　研修室
	参加者	11人(医師会、歯科医師会、薬剤師会、ケアマネジャー、訪問看護師、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、高齢者相談センター等)
	議題等	１　在宅療養相談センターの相談事例紹介について ２　情報共有・意見交換 ３　その他
	内容	港区在宅療養相談センターにおける相談事例の紹介のほか、訪問看護師から訪問看護における課題について、ケアマネジャーからケアマネと訪問看護における現状と課題について説明していただき、意見交換を行いました。また、第１回の時に明らかとなった高層マンション等における訪問時の課題について、区で調べた内容について情報共有しました。
	主な意見	・訪問看護部会が作成しているステーション情報を共有する等して有効活用していけたら良い。 ・多職種で連携し、勉強会や意見交換会を実施したい。

第２回港区地域連携連絡会の様子 ☛

（４）港区福祉関係機関等連絡会

包括的な相談体制の整備

令和４年８月に各総合支所区民課に設置した福祉総合窓口を効果的に機能させるため、福祉に関する各分野の相談を実施している関係者間の連携を深め、日常的に情報共有が図れる関係づくりを目的として、令和２年度から港区福祉関係機関等連絡会を開催しました。

第１回	日時	令和５年６月21日（水）15時～17時
	会場	区役所内会議室
	参加者	27人（各地区高齢者相談センター、障害保健福祉センター、新橋はつらつ太陽、精神障害者支援センター、児童発達支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談センター、社会福祉協議会、各地区区民課保健福祉係・障害者福祉課・子ども家庭支援センター・生活福祉調整課）
	議題	１　開会のあいさつ ２　福祉総合窓口について ３　各機関からの自己紹介 ４　事例検討（グループディスカッション）「～複合的課題を抱える世帯について考える～」 ５　その他
	内容	福祉総合窓口の運営状況について事務局から説明した後、複合的な課題を抱える世帯の事例を用いてグループディスカッションを行いました。
	主な意見	・顔を見知った関係性の構築を含めた多職種連携が必要 ・旗振り役が重要であるし、どこが旗振り役となるかが課題 ・チーム支援という意識づけも重要

第１回港区福祉関係機関等連絡会の様子 ☛

第２回	日時	令和５年11月10日（金）15時～17時
	会場	麻布区民協働スペース
	参加者	33人(各地区高齢者相談センター、障害保健福祉センター、新橋はつらつ太陽、精神障害者支援センター、児童発達支援センター、生活・就労支援センター、在宅療養相談センター、社会福祉協議会、各地区区民課保健福祉係、生活福祉係・障害者福祉課・高齢者支援課、子ども家庭支援センター)
	議題	１　開会のあいさつ ２　重層的支援体制整備事業～国の動きについて～ ３　事例検討 事例１：母子関係に課題のあるケースに対する支援について 事例２：高齢者、生活困窮、障害の複数分野に課題のある介入拒否の世帯対応について ４　その他
	内容	事務局より重層的支援体制整備事業に関する国の動向について説明した後、実際にあった複合的課題を抱える世帯の事例を用いてグループディスカッションを行いました。
	主な意見	＜母子関係に課題があるケース＞ ・母子分離することのメリット等、詳細の説明をする。 ・物理的に離して環境を整える。 ＜複数分野に課題のある介入拒否の世帯のケース＞ ・見守りを続け介入のタイミングを待つ。 ・アンテナを張り安否確認を行いながら各担当と連携をとる。

第２回港区福祉関係機関等連絡会の様子

（５）港区医療機関等連絡会

港区ならではの地域包括ケアの推進のため、医療機関と在宅療養等に関する情報共有などの連携強化を図り、ケース対応等におけるネットワークの構築を目的として、港区医療機関等連絡会を開催しました。

第１回	日時	令和５年10月30日（月）14時～15時
	会場	区役所内会議室（オンライン併用）
	参加者	15人(区内10病院のソーシャルワーカーまたは看護師、在宅療養相談センター等)
	議題	１　課題の共有（事前アンケートより） ２　医療機関との意見交換　　テーマ：「成年後見制度について」 ３　今後の開催方法について ４　事務局からの情報提供 ５　その他
	内容	事前に挙げていただいた課題を共有し、その中から、成年後見制度をピックアップし意見交換を行いました。
	主な意見	・後見人選任までの間の対応に苦慮しているし、後見人選任までに亡くなってしまう方もいるため、後見人がつくまでの期間がもう少し短くなってほしい。 ・地域権利擁護事業が入院時から使えるようになるか、あるいは後見人がつくまでの間で使える支援があると良い。

第２回	日時	令和６年３月７日（木）15時～16時
	会場	オンライン開催
	参加者	14人（区内８病院のソーシャルワーカーまたは看護師、在宅療養相談センター等）
	議題	１　医療機関ソーシャルワーカーネットワーク取組の報告 ２　情報共有・意見交換 　「身元保証問題」と「身寄りのない人に起こりうる様々な問題」について ３　区からの情報提供 ４　その他
	内容	令和５年11月から病院間で実施している港区医療機関ソーシャルネットワークの取組について報告していただいたほか、「身元保証問題」及び「身寄りのない人に起こりうる様々な問題」について情報共有や意見交換を行いました。
	主な意見	・身寄りのない方が今後増えていくため、病院間だけでなく、区や地域の方々と共に、地域の問題について共通認識を持てるよう進めていきたいと考えている。 ・何も持たずに入院してきた患者の「お金の問題や荷物の問題」については毎回苦慮しており、退院調整の看護師やソーシャルワーカーで患者の家に行って荷物を持ってくる等の対応をしている。 ・身寄りはいても家族に連絡してほしくない方もいて、関わり方や亡くなった後の対応に苦慮したこともある。 ・キーパーソンが複数いることで対応が難しい場合もある。 ・病院のソーシャルワーカーとして院外に出て手助けしなくてはならないことはあり、どこまで支援するか悩みながらも職域を超えて支援していくしかない状況。 ・病院のソーシャルワーカーだけでなく、区や社会福祉協議会、地域のケアマネジャーが職域を超えて支援していかないと漏れてしまう方がいるという実態に対して手立てを考えてほしい。

4 港区在宅療養相談センターの運用

地域を支える仕組みづくり

港区在宅療養相談センター（以下「センター」という）は、医療機関及び福祉関係機関への訪問等により連携を一層進め、退院から在宅への相談対応や在宅療養に関する情報共有等、相談の機能強化を図りました。

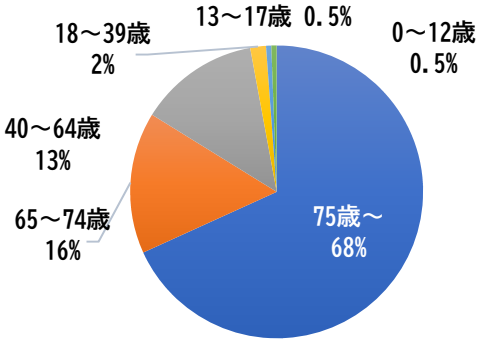
（１）相談実績（令和５年度）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
対象者数	11	18	19	20	15	16	13	12	15	11	10	13	173

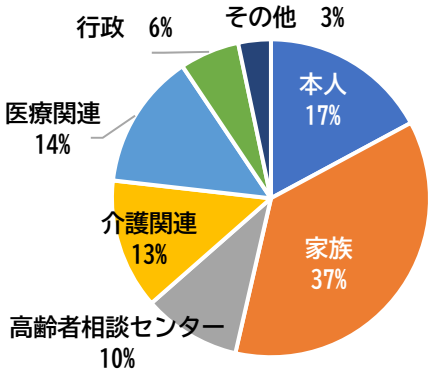
1カ月あたりの対象者数	令和５年度　約 14 人	令和４年度　約 24 人	令和３年度　約 22人

※1人の対象者に対し、複数の相談者に対応する場合があるため、対象者と相談者は同数ではありません。

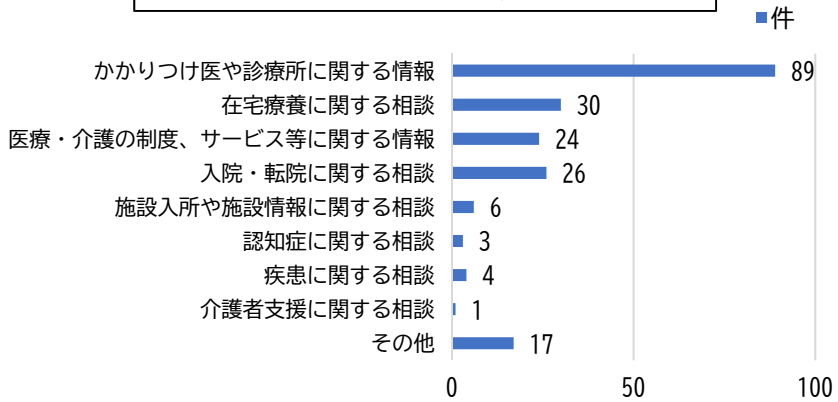
対象者の年齢



対象者との関係（相談者n＝181）



相談内容（対象者173人　複数計上あり）



（２）相談対応の連携

三師会や各地区高齢者相談センター、福祉総合窓口と連携しながら相談対応を行いました。また、区内12病院に訪問し医療ソーシャルワーカー等との連携を深めました。

5 在宅療養後方支援病床の運用実績

在宅療養等に関する連携の推進

区内２病院（東京高輪病院、古川橋病院）と協定を締結し、（平成29年3月22日）、一時的な入院が必要な区民が、速やかに入院することができる病床を確保することを目的とし、運用しました。

▲東京高輪病院

▲古川橋病院

（1）入院目的

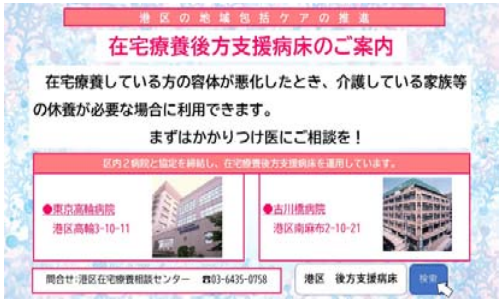
	レスパイト	介護者の急病・介護困難	対象者の加療	合　計
件数	29	26	111	166

年間件数	令和４年度　162件	令和３年度　134件	令和２年度　139件

（2）利用者の年齢区分

	64歳以下	65歳～74歳	75歳以上	合　計
人数	10	10	146	166

（3）周知状況（例）



デジタルサイネージ

総合支所をはじめ区内50箇所の施設に設置し、広報番組や各部署からのお知らせ等を発信

各種パンフレット

港区在宅療養相談センターや港区在宅療養ガイドブックに掲載

（4）港区在宅療養相談センターとの連携

在宅療養後方支援病床の利用方法や運営状況等について、定期的に連絡会を開催し、情報を共有しています。

6 地域包括ケア研修会の実施報告

在宅療養等に関する連携の推進

	第１回	第２回	第３回
日時	令和５年６月２日（金）19時15分～20時30分 （オンライン開催）	令和５年10月27日（金）19時15分～20時30分 （オンライン開催）	令和６年３月１日（金）19時15分～20時30分 （オンライン開催）
参加数	180人	114人	129人
担当病院	東京慈恵会医科大学附属病院	東京都済生会中央病院	ＪＣＨＯ東京高輪病院
テーマ	パンデミックが地域医療・介護を如何に変え、どこへ向かうのか ～地域包括ケアシステムは新たなステージへ～	地域包括ケアシステムにおける 急性期・慢性期災害対応	地域包括ケアにおける多職種連携 ～モノがあふれる家で生活する人への支援～
講師	講演 「港区の地域包括ケアの推進現状と課題」 港区医師会　常務理事　安田 淳 特別講演 「国の動きを見据えた、在宅医療、医療・介護連携の将来」 日本医療安全調査機構 専務理事　矢島 鉄也	講演 「災害時だからこそ、地域で慢性疾患を守ろう！～いつもの薬は地域の力で～」 日本赤十字社医療センター 薬剤部・国際医療救援部　　小林 映子 特別講演 「災害急性期における高齢者対応の課題」 東京都済生会中央病院 副院長・救命救急センター長　関根 和彦	講演１「地域の立場から」 麻布地区高齢者相談センター　佐藤 志穂子 講演２「ケアマネの立場から」 港区介護事業者連絡協議会 ケアマネ部会長　享保 奈々 講演３「訪問看護師の立場から」 ナースステーション東京 所長　前島 真優子 講演４「医師の立場から」 悠翔会在宅クリニック新橋　院長　齋木 啓子
共催	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京慈恵会医科大学附属病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京都済生会中央病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、JCHO東京高輪病院
当日の様子			

7 福祉総合窓口について

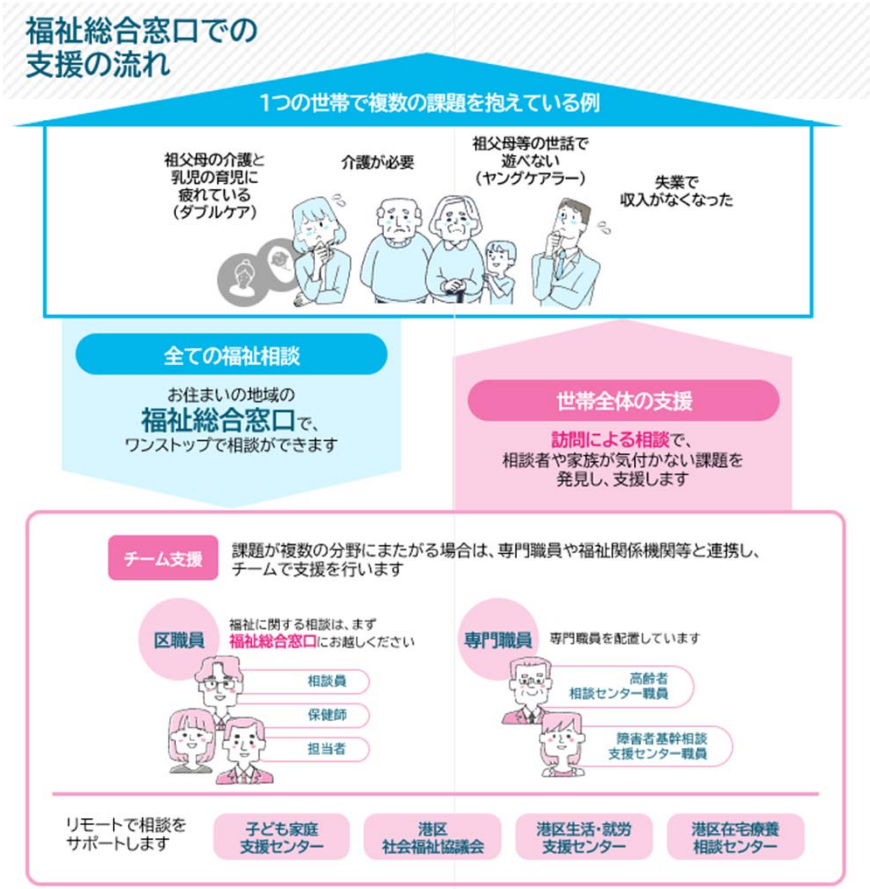
包括的な相談体制の整備

平成４年８月に各地区総合支所に設置した福祉総合窓口では、保健師等が常駐している高齢者相談センターや障害者基幹相談支援センター職員とのスムーズで迅速な連携により、分野を問わず福祉の相談に対応しています。

生活･就労支援センターや子ども家庭支援センター等の福祉関係機関等との連携を深めるために年に２回連絡会を開催し、事例研究やグループワークを行っています。

【分野別相談対応件数】

分　　野	令和５年度 相談対応数 （暫定）	令和４年度 相談対応数
高　齢	6,107	6,097
身体障害	23,787	29,703
知的障害	2,919	3,148
保　健	11,976	14,473
生活福祉	1,253	922



困ったことを何でも相談できるので、**相談先に迷わずにすみました。**

8　多職種の連携について

地域を支える仕組みづくり

支援者のための関係機関連携ガイドブック

多機関・多職種連携を円滑に図れるよう、支援者同士のより良い関係性の構築に向け、連携のポイント等をまとめたガイドブックです（初版：令和４年８月発行）。令和６年３月に改訂版を発行し、区内病院、介護事業者（ケアマネジャー、訪問看護師など）、港区社会福祉協議会、高齢者相談センター等の福祉関係機関、各総合支所区民課、みなと保健所等に配布しました。

改訂内容

第１章　港区の取組	コラム「「重層的支援体制整備事業」による港区ならではの包括的な支援を目指して」を追加
第２章　連携のためのポイント	・権利擁護支援の追加 ・ヤングケアラー支援コーディネーターの追加 ・コラム「看取りに関係するご遺族支援コーナー」の追加 ・コラム「地域生活支援拠点事業」の追加
第３章　港区内の主な相談窓口等の紹介	・医療相談窓口（医療に関する相談）の追加 ・後方支援病床の追加 ・港区子ども家庭相談ダイヤル（子ども・子育てに関する総合相談）の追加 ・医療機関・介護事業者検索システムについて掲載
全体的な修正	・各項目について即座に情報検索できるよう二次元コードの追加 ・相談窓口の紹介ページに各施設の連絡先の掲載 ・各章ごとの体裁やデザインの統一化

9　普及啓発

効果的な情報発信

（1）区民公開講座

港区ならではの地域包括ケアの取組について、区民や関係する施設職員、相談員等を対象に、区民公開講座を開催しました。

第１回	日時	令和５年11月16日（木）14時～16時
	会場	港区立男女平等参画センター　リーブラ学習室Ａ
	参加者	33人
	テーマ	在宅療養の実際～医師・歯科医師・薬剤師からのメッセージ～
	プログラム	・講演１「港区の訪問診療・往診について」　講師：明石浩和（青山明石クリニック） ・講演２「港区の訪問歯科診療について」　講師：小川綾子（麻布十番はな歯科） ・講演３「港区の薬剤師の訪問について」　講師：嶋野仁　（ライオン薬局） ・質疑応答
	アンケートの意見	・訪問診療の実際を知ることができて勉強になった。 ・多種のお話を伺う機会があまないので、それぞれの役割がよく理解できた。 ・訪問診療・往診について事例が多く、イメージが付きやすかった。 ・一旦訪問歯科に切り替えると、通院に戻しにくいことを知れた。 ・訪問歯科診療について自宅でできる範囲が広いのに驚いた。 ・薬の飲み忘れをなくす工夫が聞けて良かった。 ・医者だけでなく、薬剤師の訪問や役割は大きいと感じた。

令和５年度第１回
区民公開講座の様子

令和５年度第１回
区民公開講座のチラシ

第２回	日時	令和６年３月18日（月）14時～16時
	会場	港区立神明いきいきプラザ　集合室Ｂ
	参加者	27人
	テーマ	介護保険の実際と在宅ケアを支える人たちからのメッセージ
	プログラム	・講演１「介護保険とは」　講師：内藤　麻里（高輪地区高齢者相談センター） 堤　治美（高輪地区高齢者相談センター） ・講演２「介護保険サービスの利用に向けて」　講師：享保　奈々（港区介護事業者連絡協議会） ・講演３「在宅療養のイメージと在宅療養相談センターの実際」 講師：村山　舞（港区在宅療養相談センター） ・質疑応答
	アンケートの意見	・ケアマネジャーやのヘルパーが不足している状況等勉強になった。 ・ヘルパーの行えることや時間が短縮している等の話が聞けて良かった。 ・資料だけでなく、事例等あって聞いていて飽きなかった。 ・訪問医、訪問歯科、訪問薬剤師の説明や訪問診療と往診の違い等の話が良かった。

令和５年度第２回
区民公開講座の様子

令和５年度第２回
区民公開講座のチラシ

（２）医療機関・介護事業者検索システム

医療と介護の連携を目的とし、既に稼働している介護事業者情報検索システムに医療機関等（病院、診療所、歯科診療所、薬局）の情報を追加し、令和６年１月29日に公開しました。

① 医療機関掲載件数

	病院・診療所	歯科		薬局	全体
送付件数合計	826件	613件		208件	1647件
掲載件数（割合）	375件（45%）	299件（49%）		108件（52%）	782件（47%）
掲載件数の内、三師会会員数	医師会員 210件	芝歯科医師会員 105件	麻布赤坂歯科医師会員 77件	薬剤師会員 74件	

② 運用

変更や廃業があった場合は直接事業者が連絡を受け付け、システムを更新しました。

（３）みなと医療ＢＯＯＫ2024年版

地域の医療機関や薬局の案内に加え、区の地域包括ケア推進の取組や在宅医療、感染予防、母子保健、障害者、高齢者、防災等の情報を掲載した冊子で、港区医師会と協定を結び隔年発行しており、令和６年１月末に2024年版を発行しました。

（４）広報媒体

①区ホームページ

地域包括ケア

港区在宅療養相談センター

- 「港区在宅療養相談センター」のご案内

在宅療養後方支援病床

- 「在宅療養後方支援病床」のご案内

地域包括支援推進協議会（旧：地域包括ケア推進会議）

- 令和4年度第1回港区地域包括ケア推進会議を開催しました
- 令和4年度第2回港区地域包括ケア推進会議を開催しました
- 令和5年度第1回港区地域包括ケア推進会議を開催しました
- 令和5年度第2回港区地域包括ケア推進会議を開催しました

地域包括ケアの取組を区のホームページで発信しました。

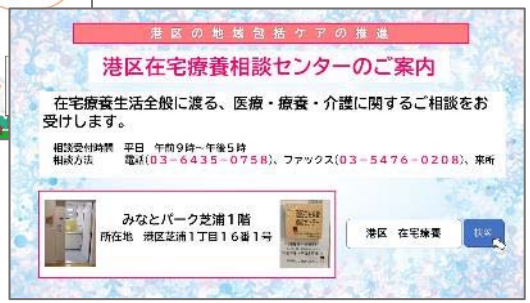
・港区在宅療養相談センター
・在宅療養後方支援病床
・港区地域包括ケア推進会議

②デジタルサイネージ

総合支所をはじめ区内50箇所の施設に設置しているデジタルサイネージを活用し、地域包括ケアの取組を発信しました。

▲福祉総合窓口

▼港区在宅療養相談センター



③区主催のイベント

◆港区介護予防フェスティバル
　パネル展示にて地域包括ケアの取組を周知しました。
開催日：　令和５年11月10日（金）・11日（土）
開催場所：港区立介護予防総合センター　ラクっちゃ

◆みなとパーク芝浦フェスティバル
　パネル展示にて在宅療養相談センターの周知をしました。
開催日：　令和６年３月１日（金）・２日（土）
開催場所：みなとパーク芝浦

④その他周知啓発活動

その他、庁内の研修会や大学等で実施される講演会にて地域包括ケアの取組の啓発をしました。